

石川
俊夫

山の情景を表現する石川さん

石川さんは、平成15年に開かれた第54回群馬県美術展（工芸の部）に始めて出品し、奨励賞に選ばれ、その後も第55・56回と2年連続で群馬県美術展で入選しました。

50歳を期にまったく経験のない世界へのあこがれから陶芸を選び、明和町の陶芸クラブに入会した石川さん。先生から粘土を渡され「何か作ってみなさいと言われたが全然できず、先生が作るのを見てすごいと思った」と話します。

陶芸の経験がない石川さんにとっては、見るもの聞くもの全てが分からず「本当に出来るのだろうか」と不安になり、陶器の本を何冊か買い求め、独学で道具の名前や専門用語などの勉強をしました。

教室では、講師から粘土の練り方

などの指導を受けていましたが、自由に作る事が出来ないことから、粘土や道具を買い求め、自宅で本格的に陶芸を始めました。

1年くらい経ってからは、いろいろ工夫をして作品を作るようになりました。2年くらい経つと、自分の主張のために作品を作るようになり、このころから、展示会に出品するという目標を持つようになります。

「目標を持たないと長く続かないし、常に目標のためには努力するようになる」また、焼き物が上達するには「粘土の量をいかに使うかで決まると話します。今は、展示会に向けての作品を製作中です。

石川さんの第56回県美術展入選作品は、2月28日から3月8日まで役場町民プラザに展示されます。

PROFILE

●いしかわ・としお

昭和23年明和町生まれ。20歳の時企業に勤めながら、独学でデザイン、写真を学ぶ。昭和49年デザイン事務所設立。昭和51年デザイン会社設立。平成10年陶芸クラブに入会。平成15年に県美術展奨励賞、16・17年入選等活躍されている。

自分の主張を陶芸で伝える